

発災後

一被災者として









風圧耐 2.4M
路上注意
2.4M

120-52-4850

Win
Zhtn



発災後

NPO、市民活動団体の一員として
(あくまでも個人として)

千葉県災害ボランティアセンター
千葉県社会福祉協議会



福祉会館

木更津市
災害ボランティアセンター

木更津市社会福祉協議会



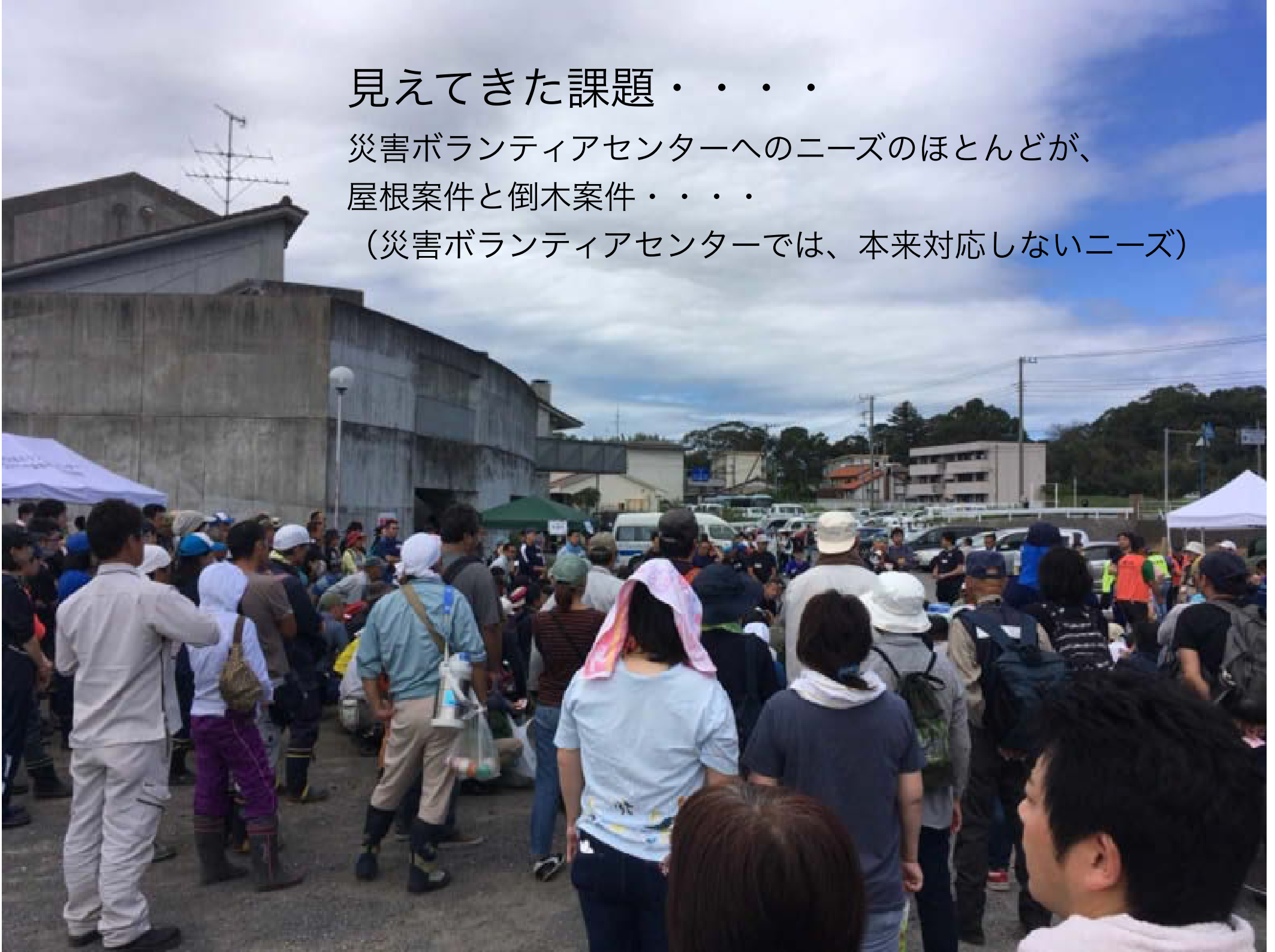
富津市災害ボランティア受付入口



見えてきた課題

災害ボランティアセンターへのニーズのほとんどが、
屋根案件と倒木案件

(災害ボランティアセンターでは、本来対応しないニーズ)



発災前

NPO、市民活動団体の一員として
(中間支援のNPOとして)





10月5日技術系情報共有会議 千葉南部災害支援センター設立への動き



台風15号の直撃からひと月が経ちましたが、まだまだ台風の被害が残り、多くの人の生活への影響が続いています。

発災後、日本各地から千葉県入りし、日々、支援のための活動を続けている多くのNPO、団体が、一日の大変な活動のあと、市町村の垣根を越えて、情報を共有しようと集まりました。

愛・知・人、JRVC、レスキューアシスト、安房第四教区青年会、ADRA JAPAN、日本財団、DRT、風組関東、Peace Winds JAPAN、災害情報支援ポータル、DEF-TOKYO、チーム神戸、鴨川市社会福祉協議会、ロハス南阿蘇たすけあい、BOND & JUSTICE、臨坊、智山青年連合会、JVOAD、DPLS JAPAN、i.PLANNER、震災がつなぐ全国ネットワーク、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援P）、OPEN JAPAN、ジャパン・プラットフォーム、ボードレスファイヤー、BIG UP、ディープデモクラシー・センターほか（抜けがありましたらお知らせください）、多くの方々が、情報共有のために集まりました。

たまたま、ちばnpo/csoセンターが、被害の大きかった千葉南部地域の比較的中心にあることから、ここを会場に「第一回技術系団体情報共有会議（仮）」の開催となりました。

一部の市町村では、すでに支援の終わりを言い始めていたりもしますが、現場で動くNPOから聞こえてくる現状は、この災害支援は一体いつまで続くのだろう・・・、というものです。

月日の経つのと同時に災害への関心もだんだんと低くなっていきます。しかし、わたしたちは、本当の支援はむしろこれからだと考えています。

みなさまの、引き続きの「参加と協力」を何卒よろしくお願いします！



